

ロジックモデル各指標の定義 とベースライン測定進捗状況 の報告

厚労科研 指定研究班

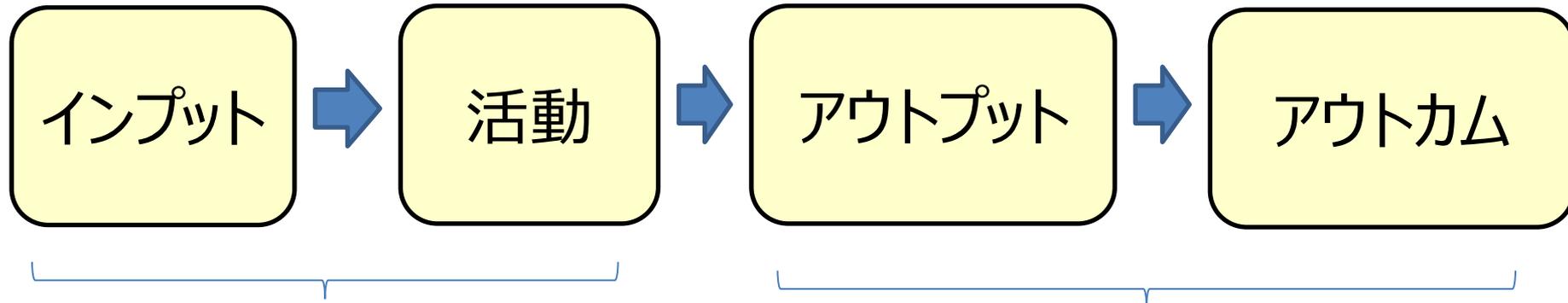
井上真奈美

(国立がん研究センター がん対策研究所 副所長)

2024年8月5日 15:00~17:00
がん対策推進協議会

ロジックモデルとは

- 事業や組織が最終的に目指す変化・効果の実現に向けた道筋を体系的に図示化したもの
- インプット、活動、アウトプット、アウトカムを矢印でつなげる



実施者が行うこと

実施者がプログラムに投資するもの
(例：資金、人材、時間、設備、技術など)

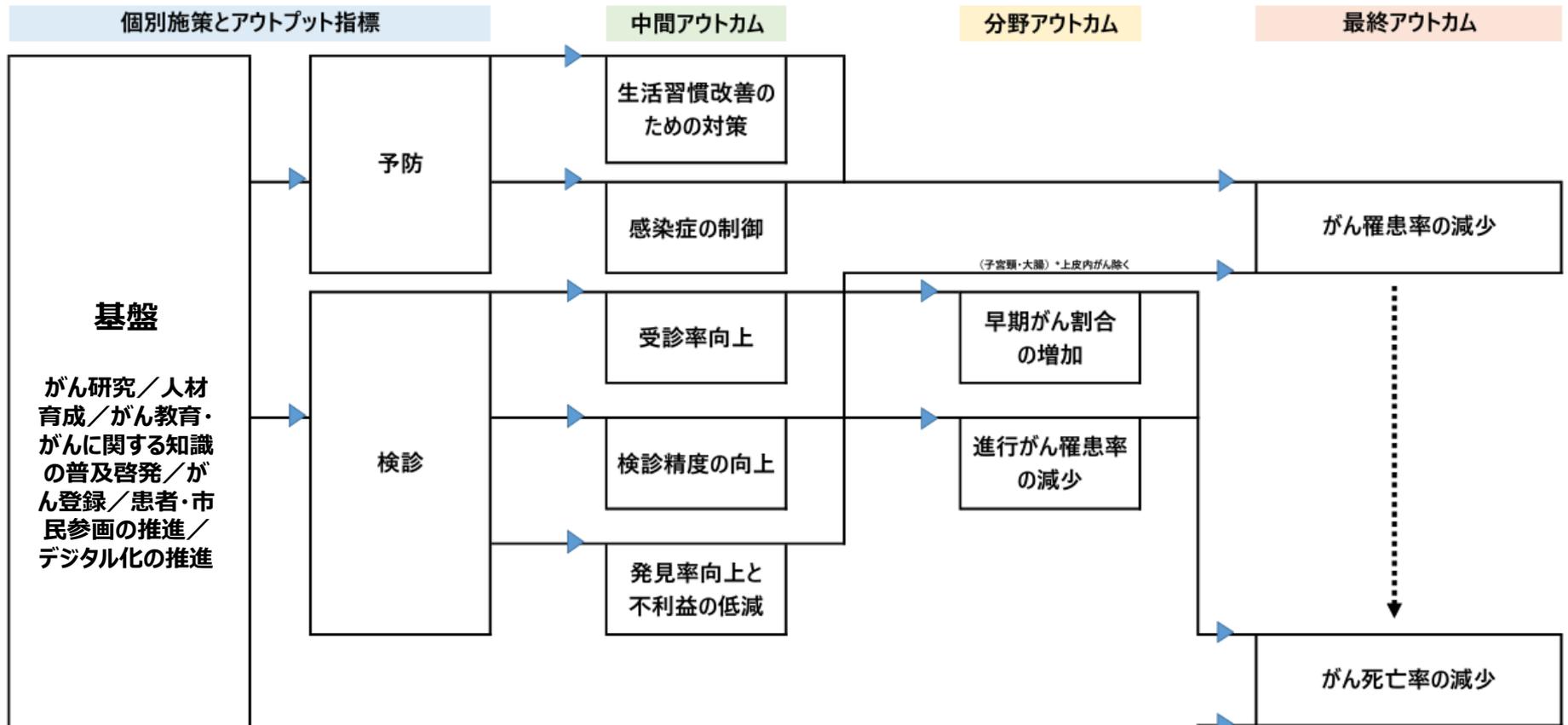
プログラムで行うこと
(例：教育、食事の提供、指導)

その成果

プログラム活動の直接の成果
どれだけの活動が提供されたか
(例：教育を受けた人数、講義回数など)

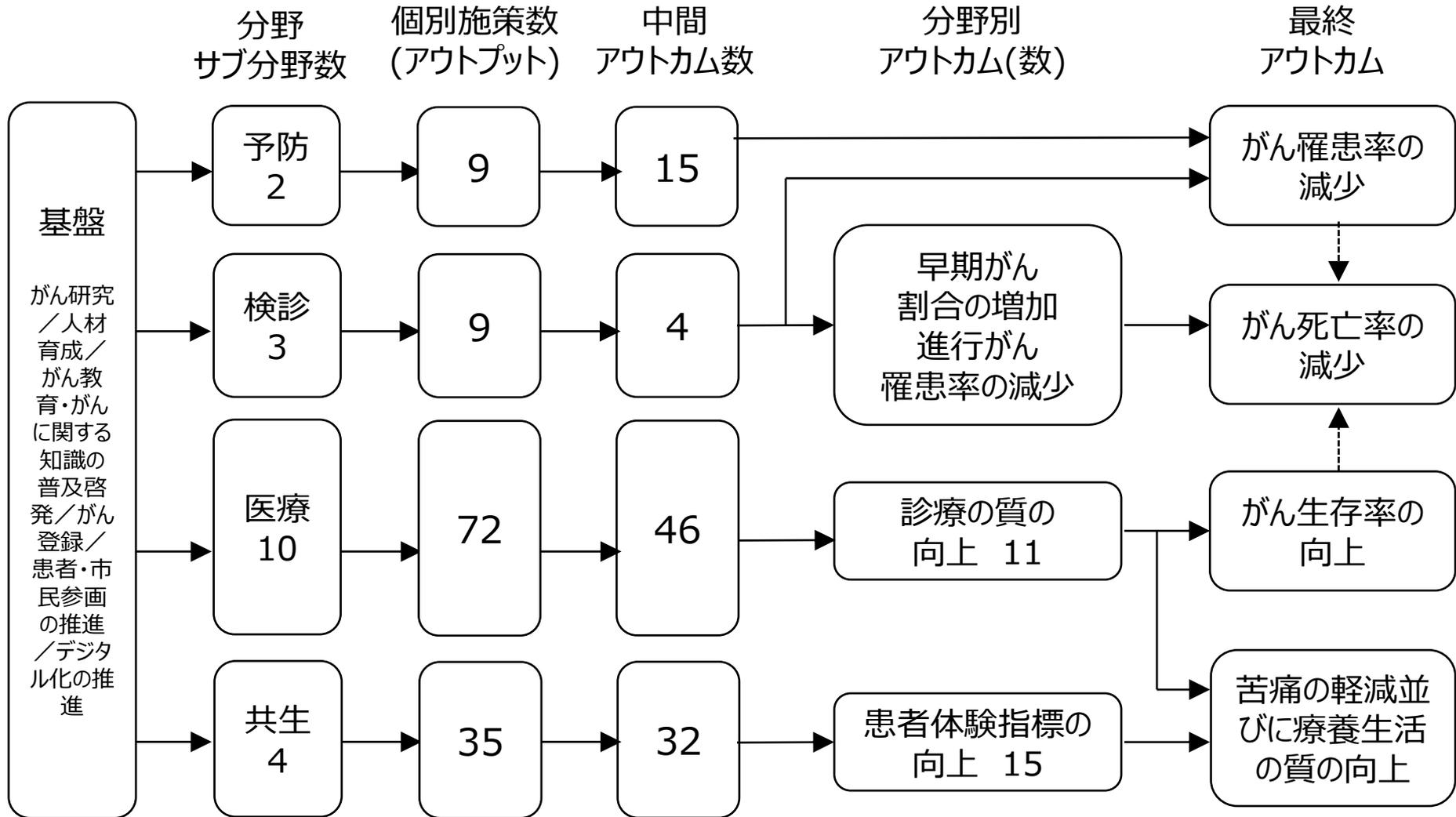
プログラムによって対象者にもたらされた利益
プログラムによって何が変わったのか (例：知識の変化、態度の変化)

ロジックモデル



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル

基本ロジックモデル



指標を設定して、評価につなげる

- 指標は、公開されたデータソースがあり、適切な目標値の設定と評価が可能なものを中心に検討する。

指標のデータソース

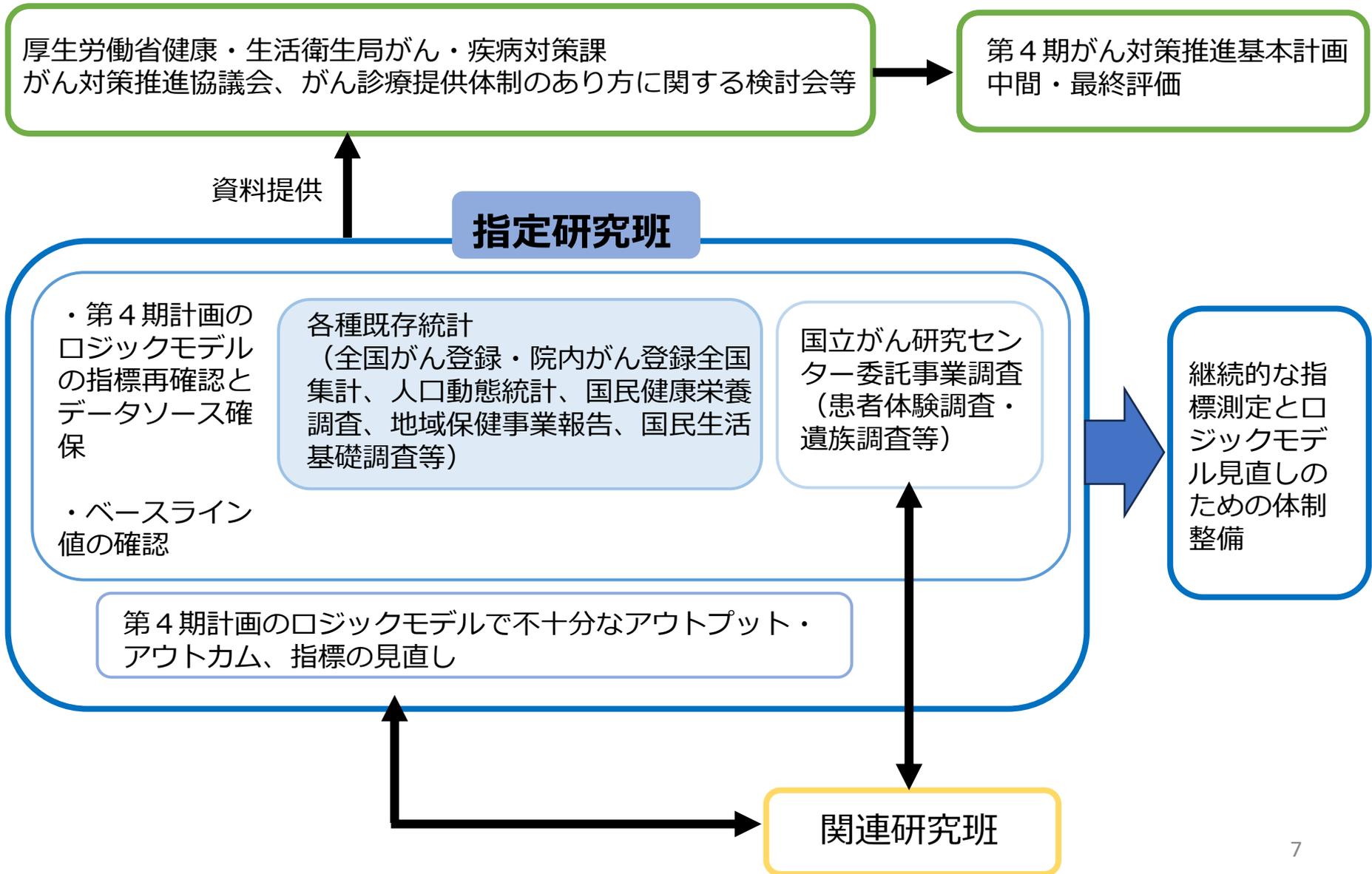
- 通常指標（死亡率、罹患率、喫煙率、検診受診率）
 - がん登録（全国がん登録、院内がん登録全国集計等）
 - その他の既存統計
人口動態統計・国民健康栄養調査・地域保健事業報告・国民生活基礎調査等
- 患者体験指標（満足度、痛み、不安）
【Patient Reported Outcome (PRO)】
 - 患者体験調査
 - 遺族調査

- 都道府県単位で評価ができる指標が望ましい。
- 必要に応じて、格差を検討する（地域、施設、特性別）。
- 全体の指標数について、管理可能な数にとどめる。

第4期がん対策推進基本計画指標一覧 分野別アウトカム

分野	#	再掲	指標	3期	データソース
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実					
分野別アウトカム指標	100001		がん種別年齢調整罹患率（胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん）	1004	全国がん登録
	100002		がん種別年齢調整罹患率（肝・ATL・子宮頸部）	1004	全国がん登録
	100003		検診がん種別早期がん割合	-	全国がん登録
	100004		検診がん種別進行がん罹患率	-	全国がん登録
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供					
分野別アウトカム指標	200001		がんの診断・治療全体の総合評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
	200002		小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価（平均点又は評価が高い割合）	2005	小児患者体験調査
	200003		若者ががん患者のがんの診断・治療全体の総合評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
	200004		一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	2003	患者体験調査
	200005		治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査
	200006		身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
	200007		精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
	200008		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査
	200009		療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査
	200010		在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析（全死亡のうち在宅死亡）
	200011		希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	2083	患者体験調査
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築					
分野別アウトカム指標	300001		がん相談支援センターを利用したことのある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査
	300002		ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査
	300003	再掲	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3022	患者体験調査
	300004	再掲	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査、小児患者体験調査
	300005		がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあるとと思う人の割合	-	世論調査
	300006		望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	3034	遺族調査
	300007	再掲	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析（全死亡のうち在宅死亡）
	300008		治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合	-	患者体験調査
	300009		金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	-	患者体験調査
	300010	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
	300011		身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	3014	患者体験調査
	300012		がん患者の自殺数	3050	革新的がん自殺研究推進プログラム
	300013		がんであることを話せる割合	-	世論調査
	300014		がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	-	小児患者体験調査 6
	300015		人生をまっとうしたと感じていた患者の割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*9

検討体制



ロジックモデルのベースライン時指標測定状況 (2024年6月末現在)

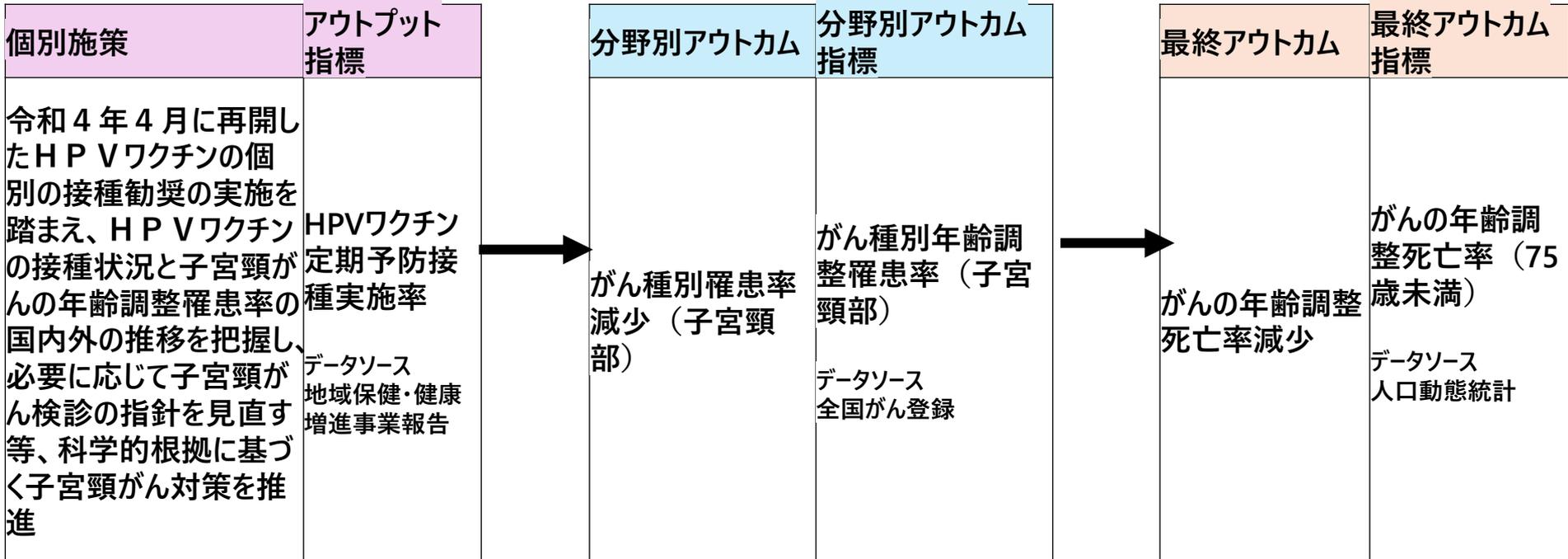
分野	アウトプット 指標	中間アウトカ ム指標	分野別アウト カム指標
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	100%	36.8%	25%
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	81.9%	71.7%	100%
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	82.9%	100%	100%
4. これらを支える基盤の整備	90.5%	90.9%	なし

未測定の箇所の主な理由：

- ・ 調査実施中（国民健康・栄養調査等）
- ・ 関連厚労科研で検討中
- ・ 全国がん登録、院内がん登録、NDBなど、利用申請中

ロジックモデルとベースライン指標測定値（例）

一次予防：感染症対策



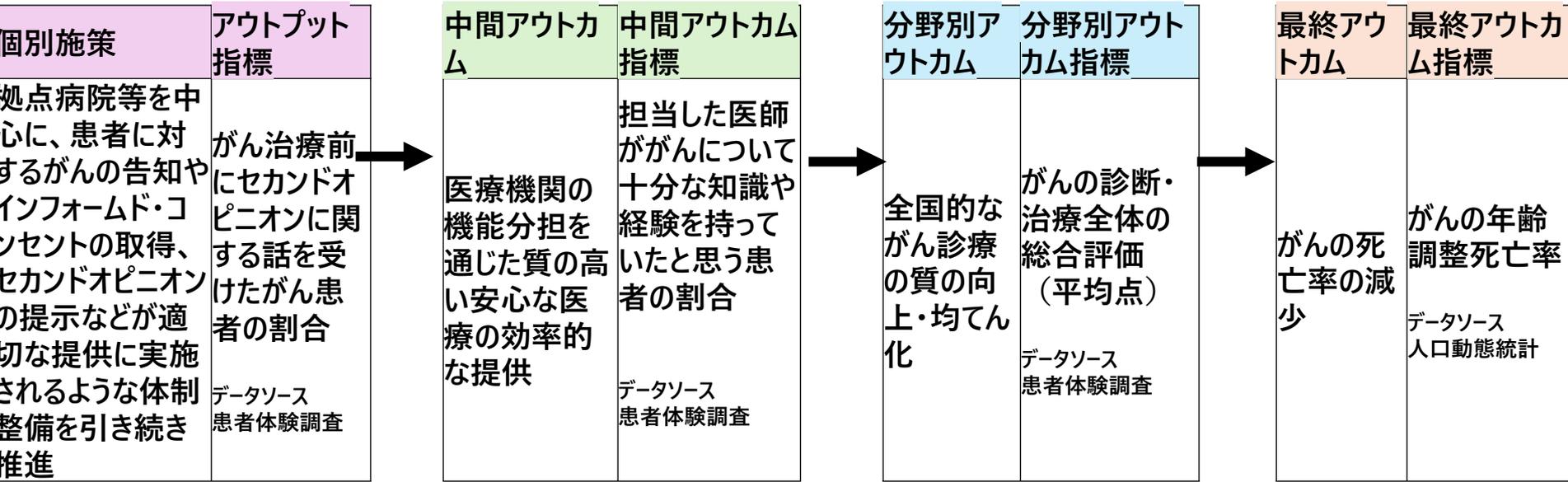
ベースライン 37.4% 13.9（人口10万対） 2.6（人口10万対）

中間評価

最終評価

ロジックモデルとベースライン指標測定値（例）

均てん化と集約化：医療提供全般



ベースライン 34.9%

78.7%

7.9点

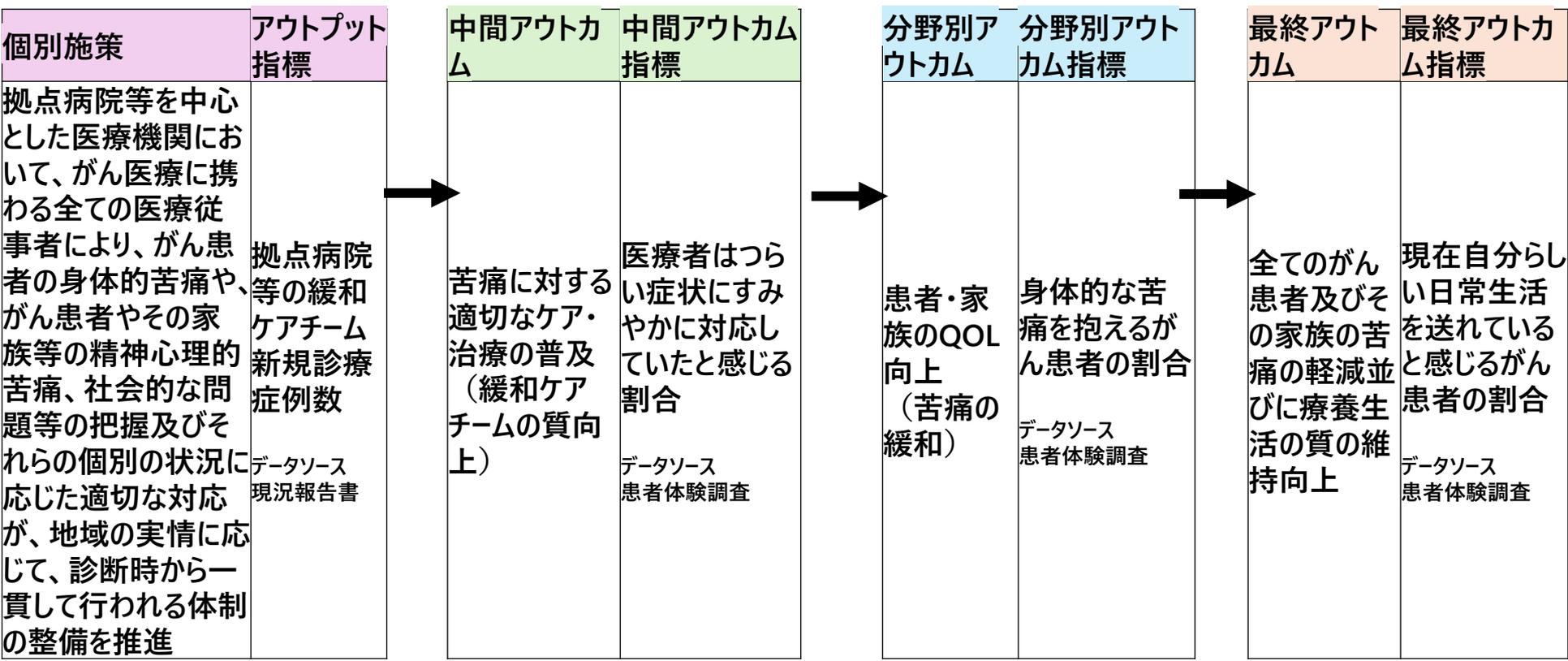
67.4（人口10万対）

中間評価

最終評価

ロジックモデルとベースライン測定値 (例)

医療提供体制等：緩和ケア



ベースライン 157,180例

75%

55.4%

70.5%

中間評価

最終評価

今後のスケジュール

- 未測定のベースライン時指標の測定
 - R6年度の現況報告書、国民健康・栄養調査で測定
- 中間評価時指標の公表予定
 - 成人患者体験調査：R6に報告（R5調査実施済）
 - 小児患者体験調査：R7に報告（R6調査実施予定）
 - 遺族調査：R6に報告（R5調査実施済）

現時点での課題

- がん医療提供体制等の指標については、現況報告書だけでなく、院内がん登録による情報の活用を検討
- 既存データソースでの指標把握方法・データソースの検討（例：指針に基づくがん検診）
- ほぼ100%となる、拠点病院の指定要件になっている指標の見直し
- 中間評価、最終評価の測定値の時期の確認
- 都道府県レベルでの測定値の算出

常に、最終アウトカムにつながる指標かどうかを念頭に評価を行っていく